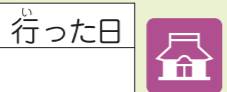


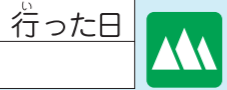
おとしじんしゃ しんざいけ ほんちやう
大年神社(新在家本町)

けんも ねんかん やしろおとしじんしゃ かみ わ
建武年間に八代大歳神社から神さまを分けてま
つた神社です。今では新在家の六つの町の守
り神としておまつりが行われています。秋のお祭り
は10月第2土曜と日曜日。他には元旦祭1月1日、
節分祭2月3日、湯立祭7月13日、千灯明祭9月10
日または11日、除夜祭12月31日が行われます。



おとこやま
男山

ふもとから山の上まで、石でつくられた階段(194
段)を登ると、昭和2年(1927)に高さ59mの山の
上を7m切り取ってつくった水道用の池がありま
す。今は公園になっています。姫路城の天守閣の
足元にある三角点という高さを表す地点が45.7m
なので、公園からながめると、姫路城を同じくらい
の高さから見ることができます。



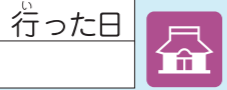
きやうどう い ど
共同井戸

この地域に新在家の村ができた数百年前か
ら、人々の生活に使う水をくむために、なくて
はならない井戸です。今でも澄み切った清ら
かな水がわいて出ています。播磨50水の一つ
になっています。



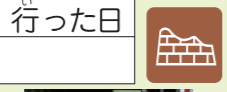
せんひめてんまんくう
千姫天満宮

男山千姫天満宮ともよばれ、姫路城の北西の
方向、お城を見渡せる男山の中ほどにあります。
元和9年(1623)に本多忠刻と再婚した千姫が、
本多家の繁栄を願って建てました。平成14年
(2002)に社殿が新しく建てられて、唐破風造り
という形の美しい外観になりました。



どうひやう
道標(八代本町二丁目)

今は、八代公民館の前に移されています。八代本
町一丁目と八代本町二丁目の境目となる道は、
中世時代より後の山陽道のルートであったと考
えられ、大正時代までは大事な道でした。

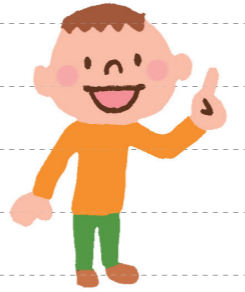


じやう けん ち く
9 城乾地区

じやうけん ちく
城乾地区には、はるか昔の弥生
時代の遺跡から、明治時代の
工場の跡まで、いろいろな時代の
ものが今も残っています。他にど
んなものが残っているか調べて
みましょう。



しら
調べたこと、
わ
分かったことを
か
書いてみよう!



- 遺跡・史跡、
伝説上の名所
- 神社・仏閣、
歴史的建造物
- 歴史上の
人物など
- 祭り、
伝説行事
- 美術品
- 伝説芸能
など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- etc その他



0m 250m 500m

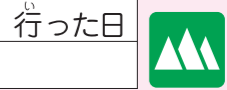
にし やしろ じぞうせん
西八代地蔵尊

にし やしろ じぞう
西八代にお地蔵さんがたくさんつくられたのは
江戸時代の11代将軍徳川家斎のころですが、
このお地蔵さんがつくられたのはそれより前だ
と伝えられています。境内にある石の灯籠には
「文化3年」(1806)と、石でできた花立てには
「天保6年」(1835)と彫られています。



はちじやうがんざん
八丈岩山

やま たか 172.9m
山の高さ172.9m。山の頂上にある八丈岩の
上からは姫路市内を見渡せます。「播磨国風土
記」という本に出てくる十四の丘の一つ「因達
神山」だと考えられていて、大汝命が、子ども
の火明命をおきざりにして逃げようと船を着
けた場所だとされています。



ふかだい いせき
深田遺跡

やよい じたい いせき
弥生時代の遺跡です。姫路高等学校が辻井
に移され、城乾小学校と城乾中学校を建てる
時に遺跡を掘り出す調査が行われました。弥
生時代の土器をはじめ土師器や須恵器など
がたくさん掘り出されました。城乾小学校の
正門前に記念碑があります。



ぼうけいてい
望景亭

いま ぼうけい じふんかん しせつ ひと
今では姫路文学館の施設の一つになっています
が、紡績会社の社長だった濱本八治郎が、16年を
かけて昭和4年(1929)に完成させた「男山荘」と
いう大きな屋敷でした。屋敷には大阪城にあった
石があり、庭の手洗い石には四郷町見野にあった
お寺の塔の基礎に使われた石が使われています。



ぼうせきがいはしやすい ろ ち
紡績会社水路跡

めいじ 8年(1875)ごろにできた「白川学校」の跡地に、姫
路木綿をもう一度かんにしようと明治13年(1880)に
国によって建てられた紡績工場がありました。イギリス製
の紡績の機械を買って、水車と蒸気機関を使って動かし
ていましたが、その後は民間の会社に売られました。今で
は船場川に工場の水路の跡だけが残っています。

